

MetaMoji 活用授業 学習指導案（英語演習）

- 1 日 時 令和3年2月10日（水）第3限（10：55～11：45）
- 2 指 導 者 田中 由美
- 3 指導クラス 3年8組
- 4 場 所 3年8組教室
- 5 学 級 観

入試に向け、集中して演習に取り組んでいる。クラス内での教え合いが活発にできる。一方で、解答に自信がなく積極的に発表できない生徒もいる。生徒同士の学び合いを充実させることで、個々の自信に繋げたい。

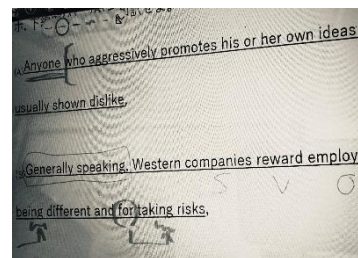
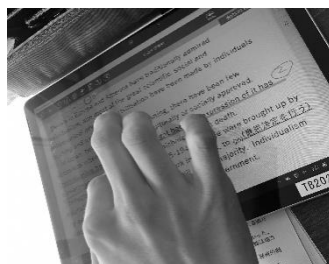
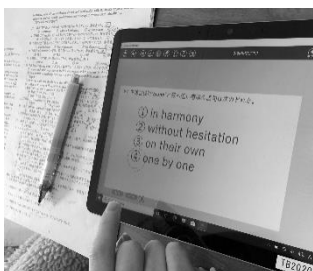
- 6 科目／単元名 コミュニケーション英語Ⅲ
- 7 使用教材 入試過去問題プリント
- 8 単元の目標
大学入試二次試験に向けた演習を通して読解力を身に付ける。
- 9 本時の展開

時間	指導過程	生徒の学習活動	教師の活動及び指導上の留意点
25分	大学入試二次試験過去問 長文読解問題演習	プリントで過去問に取り組む。	
5分	タブレット準備	タブレットを取り出し、MetaMojiを立ち上げる。	適宜、机間指導を行う。
15分	★MetaMojiの活用場面 ・解答確認	★MetaMojiを活用 ・ペアで確認しながら設問ノートに解答を入力する。 ・選択の根拠となった部分を探し、問題文ノートの本文をマーカーする。	モニターで生徒の活動状況を確認する。 必要なペアに支援を行う。
5分	全体での確認及び共有	・内容理解の根拠となるマーカーした部分を発表する。	生徒のマーカーした部分を説明させ、フィードバックする。

★MetaMojiの活用について

【MetaMojiの活用場面】

- ・プリントで解答したものをペアで確認、相談しながらMetaMojiの設問ノートに書き込む。
- ・選択問題の解答の根拠となった部分を、MetaMojiの問題文ノート本文にマーカーする。
- ・《発展課題》和訳問題で、本文ノートにスラッシュや括弧を書き込み、読解のポイントを話し合う。



【MetaMoJi 活用の意図】

- ・大学入試2次試験対策として過去問の演習を行っている時期ということもあり、答え合わせと振り返りの時間のみを MetaMoJi 活用の場面とし、長文読解問題でどのように活用できるかを試みた。
- ・生徒の様子を見ると、集中して問題に向かうことができている一方で、間違いから次へと繋げるための客観的な振り返りができていないと感じる。ペアで相談させても「1番の答えは?」「A」「同じ!次は?」...といった表面的な確認ばかりで具体的な共有ができていないことが多い。ペアでの具体的な振り返りを行う手段の一つとして MetaMoJi を活用してみたいと考えた。

【MetaMoJi 活用の成果】

- ・長文読解問題ということで、いつも通り（試験本番通り）紙面で解答させ、見直しや意見交流の機会としてタブレットに向かわせたことで、切り替えが出来ていた。
- ・全体確認の場で発表する前に、ペア活動として MetaMoJi を活用した活動を一段階挟むことで、生徒の不安を和らげることができた。
- ・何を根拠に読み解いたかを一人で考えた後、ペアで交流することで考えを深めることができた。
- ・紙面で解答している際には全く書き込みをしていなかった生徒が、ペア活動を通して自分に合うやり方を模索していた。

【今後の課題】

- ・第一の目的とした「交流によって自身の解答を振り返り、深い読解へとつなげる」という点では、個人での演習から、他者に伝えたり、意見を共有したりすることが出来、一歩進んだ活動になった。一方で、画面ではなく自分のプリントやノートに書き込みたいという生徒もおり、MetaMoJi で作成したノートをその後の復習で生徒がどう活用できるかが課題である。
- ・各自のノートをモニタリングできるのはメリットになるが、モニター用のタブレットと、生徒に示す用のタブレットと2台の必要性を感じる。特に、自分の解答が画面で他の人に見られることを不安に思っている生徒もいるため、通常の授業同様に動機づけの意味での配慮が必要である。
- ・今回は授業の関係上、読解演習での MetaMoJi 活用であった。MetaMoJi の特性を生かして生徒の学習活動に役立てるにはまだまだ研究が必要である。大学入学共通テストや大学入試自体が紙面での試験であるということもあり、まずはプリントでじっくり取り組ませ、ペアでの振り返り活動を MetaMoJi 活用の場面としたところ、タブレットに対する好奇心もあり、熱心にタブレットを操作しながら取り組んでいた。今後は、選択問題だけでなく正誤問題や英作文でも活用できるよう試みたい。
- ・生徒が予想以上に使用方法をすばやく習得していった。自分で英文を読んだり、プレゼンテーションを資料作成から行ったり、工夫次第で活用方法は広がっていくと感じた。
- ・授業のメリハリをつけるという視点や、生徒の学力定着の視点からも、「どの場面で活用するか」は精選する必要がある。全てをタブレット上のノートに記録することは難しく、紙のノートに記録し振り返る作業も重要である。様々な場面での活用を試みながらも、アナログな場面とのバランスを意識していきたい。